

2年 国語科学習指導案

日 時 平成27年11月6日(金)第5校時
場 所 2年教室

1 単元名 音読びきをしよう

2 教材名 「お手紙」 アーノルド＝ローベル 作 三木 卓 訳

3 指導の立場

(1) 教材について

本教材「お手紙」は、かえるくんとがまくんの二人の登場人物の行動を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきり描かれた作品である。かえるくんとがまくんの心の触れ合いを通して、互いを大切にする二人の友情が伝わってくる物語である。児童は、登場人物に寄り添い、共に悲しんだり喜んだりして物語の世界に浸ることができる。登場人物が個性豊かであり、場面が「がまくんの家」と「かえるくんの家」の二場面であるため、音読劇がしやすい作品となっている。会話文を中心に物語が展開され、場面の様子や登場人物の行動をがよく分かる挿絵が用いられていることを生かし、それぞれの人物になりきって音読する楽しさを味わわせたい。

この単元における言語活動は、「音読劇」である。児童はこれまでに「ふきのとう」や「スイミー」を通して、登場人物の行動を中心に、場面の様子や気持ちを想像するという学習をしてきた。本単元では、人物の行動と会話から場面の様子や気持ちを想像しながら、工夫して声で表現するだけでなく、簡単な動作をつけて演じさせていきたい。そのために、少人数での「役割読みをする」「動作を取り入れながら読む」などの物語を演じる活動を毎時間段階を追って取り入れていく。

(2) 児童の実態

男子15名、女子12名、計27名の学級である。授業中の発言の様子は、進んで話したいという意欲のある児童は多いものの、自信がなく挙手ができなかったり、大きな声で最後まで言えなかったりする児童も少なくない。聞くことについては、相手の顔を見て聞くことができない児童が数名いる。

物語教材としては、2年生になってから「ふきのとう」「スイミー」などで、場面の様子や登場人物の心情について、話に沿って読む経験をしている。役に分かれたり動作化したりしながら、場面の様子を思い描き、想像を広げながら読むことができるようになってきて、吹き出しなどに読み取ったことを書き表すことにも慣れてきた。しかし、場面の様子などを想像する際に、言葉や文に着目して考えること、読み取った内容を自分の言葉で話すことは十分ではない。アーノルド＝ローベルの作品を使ってレディネステストを行い、次のように児童の実態をとらえた。

会話の主語が分かる。	○…26% △…59% ×…15%	登場人物の気持ちや様子が分かる。	○…30% △…52% ×…18%	登場人物の気持ちの根拠が本文から読み取れる。	○…34% △…30% ×…36%
------------	-------------------------	------------------	-------------------------	------------------------	-------------------------

そのため、誰の会話か分かるように、会話文の上に登場人物を表すシールを貼ったり、かえるくんとがまくんの役割読みや動作化をしたりと、心情の変化を視覚的に捉えやすくする工夫をして、丁寧に学習していく単元指導計画を作成した。

4 研究内容との関わり

【研究内容1 単元指導計画の工夫】

年間の系統性を明確にし、単元を貫く課題や出口の言語活動に向かって読み進められるような単元指導計画を作成する。

「単元（読むこと領域）における文学的文章と言語活動との関連」

	単元名・教材名	ねらい	着目する言葉	単元を貫く課題	単元を貫く言語活動
1学期	おはなしを音読しよう ふきのとう	◎「人物」をもとに役に分かれ、語のまとまりや響きに気をつけて音読することができる。	・人物の行動と会話 ・繰り返し ・リズム	登場人物の行動から、様子を想像し、音読しよう。	登場人物になりきって、音読しよう。
	お話を読んで、かんそうを書こう スイミー	○人物の行動や場面の様子などについて、想像を広げながら読み、感想を書くことができる。	・スイミーの行動や会話 ・様子を表す言葉 ・繰り返し	スイミーの行動から、様子を想像し、スイミーに言ってあげたいことを入れて、感想文を書こう。	スイミーに言ってあげたいことを入れた感想文を、学級の仲間に発表しよう。
2学期	音読げきをしよう お手紙	◎場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。	・場所の移り変わり ・二人の行動や会話	がまくんとかえるくの行動や会話から、場面の様子を想像し、様子や気持ちが伝わるように音読劇をしよう。	アーノルド＝ローベルの作品のがまくんとかえるくんの様子や気持ちが学級の仲間に伝わるように、音読劇を発表しよう。
	じんぶつと自分をくらべて読もう わたしはおねえさん	◎登場人物の行動を捉えて想像を広げながら読み、自分の経験と結び付けて、感想をもつことができる。	・すみれちゃんの行動や会話から ・かりんちゃんへの思いに気付く	すみれちゃんの行動や会話から、様子を想像し、自分とくらべて感想文を書こう。	すみれちゃんと自分を比べた感想文を書いて、家族に紹介しよう。
3学期	お話を、そうぞうしながら読もう スーホの白い馬	◎場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。	・場面の様子 ・人物の行動や会話 ・複合語	スーホや白馬の行動や会話から、場面の様子を想像し、紹介カードを書こう。	紹介カードを書いて、あらすじを1年生に紹介しよう。

【研究内容2 児童が楽しく学べる指導過程の工夫】

(1) ユニバーサルデザインの3つの視点を明確にした指導過程

焦点化	視覚化	共有化
○読みのポイントを、登場人物の行動と会話、挿絵にしぼる。 ○深めの発問を用意し、話し合いを焦点化することで、主人公の気持ちに迫る。	○挿絵に着目し気持ちの違いを捉えられるようにする。 ○心が通い合っていく様子を板書に整理し、気持ちの変化が捉えやすいようにする。	◎全体交流で様子が伝わるように音読を工夫して、発言させる。 ○ペア交流をすることで、自分と相手の音読の工夫を比べ、様子がより伝わる工夫を考えることができる。

(2) 学習状況に応じた支援

- ・様子の分かる叙述に線が引けない児童にあらかじめ線の引いてあるプリントを用意する。
- ・音読の工夫を考えるのが難しい児童には、仲間の音読を聞いて良い所を取り入れるよう、声をかけ支援する。

5 単元目標

場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。

読(1) ア・ウ・オ

6 単元指導計画(全12時間)

〈単元を貫く課題〉 がまくんとかえるくんの行動や会話から、場面の様子を想像し、様子や気持ちが伝わるように音読劇をしよう。 〈単元を貫く言語活動〉 アーノルド＝ローベルの作品のがまくんとかえるくんの様子や気持ちが学級の仲間に伝わるように、音読劇を発表しよう。				
時数	ねらい	学習活動	評価規準	
一次	1 学習の見通しをもち、音読劇をしたいという意欲をもつことができる。	1 出来事が起こった場所を元に、場面分けをする。 「お手紙」の学しゅうけいかくを立てよう。 2 音読劇のモデルを示し、登場人物の行動や会話から、様子や気持ちを読み取り、読み取ったことを生かして場面ごとの音読劇をしていくこと、単元の終末に学級の仲間に様子が伝わるようにアーノルド＝ローベルの他の作品の音読劇をすることが分かる。 3 「お手紙」の大まかな場面を捉え、学習計画を立てながら学習の見通しをもつ。	文章や挿絵から場面分けし、音読劇をするという学習の出口を意識して、読み進めようとしている。 【関・意・態】	出口の活動への意欲をもつ
	2 物語に興味をもち、一番好きなところを見つけて、感想をもつことができる。	1 教師の範読を聞く。 1 ばんすきなところを見つけて、かんそうを書こう。 2 1 番好きなところを見つける。 3 好きなところについて初発の感想を書く。	物語に興味をもち、一番好きなところを見つけて、感想がもてる。 【関・意・態】	
	3 音読劇をするために、だれの会話文であるかに注意しながら全文を読むことができる。	1 全文を音読する。 だれの言ったことばかを、考えて音読しよう。 2 場面の様子を想像し、行動や会話の主語を確認する。 3 主語を確認しながら、全文を音読する。	がまくんとかえるくんの会話を主語と述語に気を付けて音読している。 【伝国(1)イ(カ)】	

二次	4	挿絵や「かなしい時なんだ。」「ふしあわせな気持ちになるんだよ。」の言葉に着目し、がまくんの悲しい気持ちを話し合うことを通して、がまくんの悲しみを受け止めるかえるくんの様子に気づき、悲しい気持ちの声色を工夫して、音読劇に表すことができる。	1 課題をつかむ。 お手紙をもらえないがまくんのようすを そうぞうし、音読げきであらわそう。 2 第1場面を役割読みする。 3 一人読みをし、全体交流する。 ・がまくんの様子に線をひき、気持ちや音読の仕方を考える。 「うん、そうなんだ。」「かなしい時なんだ。」「ふしあわせな気持ちになるんだよ。」「お手紙もらったことないんだもの。」「だれも、ぼくにお手紙なんかくれたことがないんだ。」「空っぽさ。」 挿絵 4 なぜ「ふたりとも」かなしいのかを考える。 「どうして「ふたりとも、かなしい気分で」 なのだろうか。」 ・がまくんの悲しい気持ちをかえるくんも分かったから。 ・お手紙をもらえないことは悲しいことだから。 5 悲しい気持ちの音読の仕方を工夫する。 ・悲しい時は、暗い声で小さく読むとよい。 6 読み取ったことを生かして、グループでがまくんとかえるくんの悲しい様子が伝わるように音読劇をする。	挿絵や「かなしい時なんだ。」「ふしあわせな気持ちになるんだよ。」の言葉に着目し、がまくんの悲しみを受け止めるかえるくんの様子に気づき、悲しい気持ちの声色を工夫して、音読劇に表している。 【読(1) ア ウ】	1 場面 音読劇
	5	「大いそぎで」「とび出しました」の言葉に着目し、がまくんに手紙を出そうとするかえるくんの気持ちを話し合うことを通して、がまくんを喜ばせたいというかえるくんの様子に気づき、急いでいる様子の緩急を工夫して音読劇に表すことができる。	1 前時を振り返り、本時の課題をつかむ。 がまくんに手紙を書くかえるくんのようすを そうぞうし、音読げきであらわそう。 2 第2場面を役割読みする。 3 一人読みをし、全体交流する。 ・かえるくんの様子に線を引き、気持ちや音読の仕方を考える。 「大いそぎで」「とび出しました。」 挿絵 4 なぜ、「かたつむりくん」に手紙をわたしたのかを考える。 「どうして「かたつむりくん」に手紙を渡したの だろうか。」 ・ぼくだったら、急いでるから自分で届ける。 ・がまくんがゆうびんうけを見て手紙を待っていたから。 5 急いでいる時の音読の仕方を工夫する。 ・急いでいる時は、速く読むとよい。 6 読み取ったことを生かして、かえるくんがまくんのことを思って、手紙を書いた様子が伝わるように音読劇をする。	「大いそぎで」「とび出しました」の言葉から、少しでも早く手紙を届けてがまくんを喜ばせたいと思うかえるくんの様子に気づき、急いでいる様子の緩急を工夫して、音読劇に表している。 【読(1) ア ウ】	2 場面 音読劇

二 次	6	挿絵や「でもね、がまくん」「がまくん。」の繰り返し言葉に着目し、お手紙を待っているかえるくんの気持ちを話し合うことを通して、投げやりになっているがまくんとの対照的な様子に気づき、何度も窓の外を見る動作を工夫して、音読劇に表すことができる。	1 前時を振り返り、本時の課題をつかむ。 お手紙をまっているかえるくんのようすをそうぞうし、音読げきであらわそう。 2 第3場面を役割読みする。 3 一人読みをし、全体交流する。 ・かえるくんの様子に線を引き、気持ちや音読の仕方を考える。 「がまくん。」「でもね、がまくん。」「もうちょっとまってみたらいいと思うな。」「ひょっとして」「くれるかもしれないよ。」 挿絵 4 なぜ、かえるくんは何度も窓の外を見ているのか考える。 どうして、かえるくんは何回もまどの外をみているのだろうか。 ・早く手紙が来ないかな。 ・手紙が来てくれれば、がまくんは喜んでくれるのに。 5 何度も窓の外を見るかえるくんの気持ちが分かるように、動作を工夫する。 ・見に行くたびに郵便受けを見ている時間を長くするとよい。 6 読み取ったことを生かして、かえるくんががまくんを喜ばせるために、手紙を待っている様子が伝わるように音読劇をする。	挿絵や「でもね、がまくん」「がまくん。」の繰り返し言葉に着目し、投げやりになっているがまくんとの対照的な様子に気づき、何度も窓の外を見る動作を工夫して、音読劇に表している。 【読(1) ア ウ】	3 場面 音読劇
	7 本 時	挿絵や「ああ」「とてもいいお手紙だ」という言葉に着目し、手紙がもらえることが分かったがまくんの気持ちを話し合うことを通して、かえるくんの優しさに喜ぶがまくんの幸せな気持ちに気づき、喜んでいる時の声色を工夫して、音読劇に表すことができる。	1 前時を振り返り、本時の課題をつかむ。 お手紙の話を聞く、がまくんのようすをそうぞうし、音読げきであらわそう。 2 第4場面を役割読みする。 3 一人読みをし、全体交流する。 ・がまくんの様子に線を引き、気持ちや音読の仕方を考える。 「でも、来やしないよ。」「きみが。」「お手紙に、なんて書いたの。」「ああ。」「とても、いいお手紙だ。」、挿絵 4 「ああ。」の気持ちの違いを考える。 がまくんの「ああ。」は1場面の「ああ。」と同じだろうか。 5 喜んでいる時の音読の仕方を工夫する。 ・喜んでいる時は、高く明るい声で読むとよい。 6 読み取ったことを生かして、手紙の話を聞いて、がまくんが喜んでいる様子が伝わるように音読劇をする。	挿絵や「ああ」「とてもいいお手紙だ」という言葉に着目し、かえるくんの優しさに喜ぶがまくんの幸せな気持ちに気づき、喜んでいる時の声色を工夫して、音読劇に表している。 【読(1) ア ウ】	4 場面 音読劇

二 次	8	挿絵や「長いことま っていました」「とても よこびました。」とい う言葉に着目し、手紙 を4日間待っていた がまくんの気持ちを 考えることを通して、 手紙が届いた時のが まくんの様子に気付 き、幸せな気持ちで 手紙を待っているが まくんの表情や動作 を工夫して、音読劇 に表すことができる。	1 前時を振り返り、本時の課題をつかむ お手紙をまっているがまくんのようすをそう ぞうし、音読げきであらわそう。 2 第5場面を役割読みする。 3 一人読みをし、全体交流する。 ・がまくんの様子に線を引き、気持ちや音読の 仕方を考える。 「長いことまっていました。」「とてもよこびま した。」 挿絵 4 4日間手紙を待つ気持ちを考える。 がまくんはどんな気持ちで4日間をすごし たのだろうか。 5 幸せな気持ちで手紙を待つ様子の動作を工 夫する。 ・幸せな気持ちの時は笑顔でいるとよい。 6 読み取ったことを生かして、手紙楽しみに待 っているがまくんの様子が伝わるように音読 劇をする。	挿絵や「長いことま っていました」「とてもよ こびました。」という言 葉に着目し、手紙が届 いた時のがまくんの様 子に気づき、幸せな気 持ちで手紙を待ってい るがまくんの表情や動 作を工夫して、音読劇 に表している。 【読(1) ア ウ】	5場面 音読劇
三 次	9 ・ 10	役割を決めて、登 場人物の気持ちや様 子を想像しながら、音 読劇の仕方を工夫 し、練習をすることが できる。	1 選んだ作品ごとにグループ分けをし、音読劇 をする部分を決める。 2 役割を決める。 ばめんやとうじょう人ぶつのようすがつたわ るように、音読げきのれんしゅうをしよう。 3 登場人物の様子が伝わるように音読劇の練 習をする。	役割を決めて、登場 人物の気持ちや様子を 想像しながら、音読劇 の仕方を工夫し、練習 をしている。 【関・意・態】	並行読 書作品 音読劇
		登場人物の様子が 伝わるように、音読 劇をし、ペア班で相 互評価をすることが できる。	1 音読の工夫を確認する。 ペアはんで音読げきを見合い、よかったと ころをつたえよう。 2 ペア班で音読劇を発表し合う。 3 相互評価をし、評価をもとに練習をする。	登場人物の様子が 伝わるように、音読劇 をし、ペア班で相互評 価をしている。 【読(1) ア オ】	
	12	登場人物の様子が 伝わるように、音読 劇をすることができ る。	1 前時を振り返り、練習をする。 学びゅうのなかまにようすがつたわるよう に、音読げきをしよう。 2 音読劇を発表する。 3 各班の良かったところを伝え合う。	登場人物の様子が伝 わるように、音読劇を している。 【読(1) ア オ】	

7 本時のねらい

挿絵や「ああ」「とてもいいお手紙だ」という言葉に着目し、手紙がもらえることが分かったがまくんの気持ちを話し合うことを通して、かえるくんの優しさに喜ぶがまくんの幸せな気持ちに気づき、喜んでいる時の声色を工夫して、音読劇に表すことができる。

8 本時の展開 (7/12)

	学 習 活 動	○指導・援助 (◎重点) ◆評価規準
つかむ	1 前時の学習を振り返り、本時の課題をつかむ。 ・第3場面の手紙が来ることをあきらめているがまくんと何度も窓の外を見て手紙を待っているかえるくんの様子を振り返る。 ・本時の課題をつかむ。	○前時までの学習を、掲示物を使って想起し、本時の学習につなげる。 視覚化 ○本時の挿絵を黒板に貼り、二人が何をしているかを問い、本時の課題につなげる。 視覚化
	お手紙の話を聞く、がまくんのようにすをそうぞうし、音読げきであらわそう。	
考える	2 本時の学習の見通しをもち、役割読みをする。 ・会話文の主語を確かめ、役割読みをする。 ・読みのポイントを確認する。	○課題解決のための「読みのポイント」を確認する。 焦点化 ・がまくんの会話 ・挿絵
	3 一人読みをし、全体交流する。 ・課題につながるがまくんの様子に線を引き、気持ちや音読の仕方を考える。 「でも、来やしないよ。」…かえるくんは、まどの外を見て、手紙を待っていたんだ。 手紙は来ないよ。 ぼくはもうあきらめたよ。 「きみが。」…きみが書いたの。 おどろいた。 じーんとした。 かえるくんがぼくにお手紙をくれるなんて。 挿絵のがまくんの顔…起きてきた。驚いている。 「お手紙に、なんて書いたの。」…お手紙、うれしいな。 なんて書いてくれたのかな。 「ああ。」…親友と書いてくれてありがとう。とてもうれしい。 「とてもいいお手紙だ。」…親友と言ってくれた。 ぼくも親友だと思っている。	○読み取った気持ちを話すときに、叙述や根拠とともに、どのように音読して表したいかを話させる。 ◎言葉から様子を想像して、身振りや言葉を補って話している児童の考えを価値付け、広げる。 共有化
深める	4 「ああ。」の気持ちの違いを考える。 「がまくんの「ああ。」は1場面の「ああ。」と同じだろうか。」	○一人読みでの各自の考えを捉えておいて意図的に指名する。 ○1場面の挿絵と比較して、二人とも幸せそうにしていることを感じ取っている児童の考えを価値付ける。 視覚化
	1 場面 ・手紙が来なくて悲しんでいる。 ・気分が落ち込んでいる。 ・暗い気分。 4 場面 ・手紙の話を聞いて喜んでいる。 ・気持ちがいい。 ・明るい気分。 ・嬉しい	○1場面と4場面の気持ちの違いをペア交流で確かめ、考えを確かにする。 共有化 ○動作化をして、1場面と4場面の違いを明確にする。
まとめる	5 喜んでいる時の音読の仕方を工夫する。 喜んでいる時の音読の工夫 ・嬉しさが伝わるように、高く明るい声で読む。 ・喜びを感じて、間を空けて読む。	◆評価規準 挿絵や「ああ」「とてもいいお手紙だ」という言葉に着目し、かえるくんの優しさに喜ぶがまくんの幸せな気持ちに気づき、喜んでいる時の声色を工夫して、音読劇に表している。 【読(1)ア ウ】
	6 読み取ったことを生かして、手紙の話を聞いて、がまくんが喜んでいる様子が伝わるように音読劇をする。	

